

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	10
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		4
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		7
1. その人らしい暮らしの支援		5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		23

事業所番号	1471500304
法人名	社会福祉 誠幸会
事業所名	グループホーム泉の郷仙石原
訪問調査日	令和7年9月29日
評価確定日	令和7年11月6日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471500304	事業の開始年月日	平成15年11月1日	
		指定年月日	令和3年11月1日	
法人名	社会福祉法人 誠幸会			
事業所名	グループホーム泉の郷仙石原			
所在地	神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1285-368			
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
			通い定員	名
			宿泊定員	名
		☒ 認知症対応型共同生活介護		定員 計
			ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年9月19日	評価結果 市町村受理日	令和7年11月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

激動する介護業界、この時代を乗り切るには昨日と同じ今日を迎えることはありません。 明日も必要とされる施設、サービスであるためには、昨日と同じ事を繰り返しているだけでは足りず、利用者ニーズに合った変革が必要です。 「決意」を持って変革に挑むことを常日頃考え情報共有する事。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和7年9月29日	評価機関 評価決定日	令和7年11月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は社会福祉法人誠幸会の運営です。同法人は横浜市区に本部を構え、横浜市を中心に「高齢者介護・障害者福祉・保育」など40ヶ所の事業所で、様々な福祉サービスを提供する総合社会福祉法人です。高齢者介護では特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム、グループホームなどの施設介護サービスから、ディサービス、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援などの在宅介護サービスまで、様々なニーズに対応できる事業を展開しています。グループホームは5事業所あり、ここ「グループホーム泉の郷仙石原」は、JRまたは、小田急線「小田原駅」からバスに乗り、約40分程の「小塚入口」で下車し徒歩5分程で、周辺は緑豊かな箱根の山々に囲まれていることから、四季折々の自然を楽しむことの出来る場所にあります。
●法人の理念や、基本方針、行動規範を基に、事業所の宣言「①不安・不快になる様な言葉かけはしません。②優しい心と笑顔で心地よい言葉かけをします。③利用者様の生活歴に重んじ尊厳を守ります。」を決め、継続して事務所内や、フロアーに掲示しています。毎朝の申し送り時には、復唱し実践につながるケアが出来るよう努めています。
●職員研修では、今年度よりイーケアラボを導入しています。職員夫々が、暗証番号でログインして、業務の隙間時間を利用した自身のペースで受けられる研修になっています。年間で研修計画を作成して、法定研修や、認知症の理解など毎月1～2項目の内容を受講するようになっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム泉の郷仙石原
ユニット名	やまぼうし

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひたむきに「しあわせ」の「和」をひろげ、誰もが笑顔で暮らせる社会をつくる。また6つの規範を守ることにより基本理念を尊重し、社会貢献に努めています。	法人の理念や、基本方針、行動規範を基にして、事業所の宣言「①不安・不快になる様な言葉かけはしません。②優しい心と笑顔で心地よい言葉かけをします。③利用者様の生活歴に重んじ尊厳を守ります。」を決め、継続して事務所内や、フロアに掲示しています。毎朝の申し送り時には、復唱し、実践につながるケアが出来るよう努めています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の総会等の集まりは控えさせていただいておりますが、地域の定期掃除には参加させて頂いております。また、日常の挨拶は欠かさないように心がけております。	地域の自治会に入会し、地域情報は回覧板などで把握しています。今年度は、箱根町主催の敬老会が富士屋ホテルで行われ、家族の協力も得て多くの利用者が参加し、地域の方々と交流しています。毎月行われる地域の清掃活動には、職員が参加し近所の方と交流しています。利用者の散歩時や、職員の出退勤時に出会った方々への挨拶は、欠かさないよう心掛けています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人口減や子供0と高齢化の進む地域になってしまいましたが、自治会活動には毎月参加をし、社協の雪かきボランティアなどに参加を予定しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度より対面で行う運営推進会議に変更しましたが、対面で行うようになり意見も幅広く、数も多くうかがえるようになりサービスの向上に生かすことができる。	運営推進会議は、奇数月に年6回開催しています。箱根町役場職員・町内会長・民生委員・家族・成年後見人・利用者などの参加で、事業所から現状や活動状況、事故・ヒヤリハットなど報告して、出席者から意見や、提案をいただきサービス向上に活かしています。議事録は、箱根町役場福祉課へ提出し、利用者の家族など参加予定者へ、コメント欄の有る出欠簿と一緒に郵送しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	箱根町主催の事業所連絡会には欠かさず出席させて頂いております。	箱根町役場福祉課とは日頃からメール等で連絡を取っています。年4回開催の介護保険連絡会や、2ヶ月毎の地域包括ケア会議に参加し、各事業所間の情報交換や、連絡事項などあり、サービスの向上に役立っています。生活保護受給者の受け入れがあり、小田原市の担当者とも定期的に連絡を取り合っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていませんが、普段の声掛け、対応が身体拘束になる事もあり、常に職員同士の連携、コミュニケーションで声を掛け合い、ご利用者様への声掛けに気をつけ、研修にも取り入れながら、身体拘束にならないようなケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会は、運営推進会議の後に開催しています。会議では利用者への声掛けの言葉や、言い方などについて話し合い検討しています。日常のケアで気になる言葉遣いがあった場合は、ユニットリーダーや、管理者が注意しています。身体拘束についての指針や、マニュアルは整備して事務所にファイルしています。職員研修は、年2回計画し、今年度よりイーケアラボにて受講しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については繰り返し研修を行なっております。内容的には職員のストレス、心理的虐待が主になっております。言葉かけや、声のトーン、対応の仕方など充分注意をする必要があるかと思ひます。起きてしまったときにはその場で注意をして早い対応をしたり、ユニット会議でも話し合いをしております。	虐待の防止委員会を身体拘束適正化委員会と合わせて開催しています。議事録は夫々単独に作成してファイルしています。虐待の防止については、職員のストレスが利用者への虐待に繋がると考え、法人では年1回は医療分析センターによるストレスチェックを実施しています。また、自己点検シートによる確認も年1回行っています。虐待の防止についての指針や、マニュアルを整備して研修も年2回実施しています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では3分の1の入居者様が成年後見人の制度を利用して頂いており、成年後見人様との話し合いや相談等いろいろ学ぶ機会もあり、今後もっと成年後見人制度の利用も増えることを予測されますので、今後実践で制度のりかひや活用が出来るのではないかと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては先を見越した説明も交えて理解、納得をして頂いておりますとともにご利用者様の不安も引き出せるように努力しております。また、今後契約書や重要事項説明書の改訂に伴い、自分自身書面の説明がしっかりとできるように理解を深めるよう努力しております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や利用者様には日頃から意見やご要望等ご面会時や電話連絡でおうかがいする様にしております。意見や要望、問題点等は電話連絡等で早い対応でご理解や解決できるように心がけております。	家族からの意見、要望は、運営推進会議出席時や、面会時の声掛け、電話連絡時などに聴いています。利用者の状況を知って頂くため、毎日のケース記録と、手紙や写真を添付して毎月家族宛てに郵送しています。家族からの意見、要望などは、申し送り時や、連絡ノートに記入して情報を共有し、事業所の運営に反映させています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回の職員会議において、意見の交換をして、より良いケア、業務の改善に取り組んでおります。また、2ユニットのリーダー会議での話し合い、意見交換で生じた問題点においては各ユニットに持ち帰り、あらたに職員の意見を聞き、改善へと対応に心がけております。	毎朝の申し送りは、ユニット合同で行い管理者も参加して意見や、提案を聴いています。各ユニット毎の会議や、ユニットリーダーと管理者で開催のリーダー会議は必要に応じて開催し、意見交換を行い、より良いケアや、業務の改善に取り組んでいます。管理者と職員の個人面談は、必要に応じて随時実施しています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準ではあらたな加算もあり、見直しを今年度も続けて行なっております。今年度も人員不足が続く、あらたに職場の環境、整備にも力を入れておりますが、今だ続いている職員不足は今後も大きな課題です。	法人指定の考課表で評価を行い、新たな加算等も見直しを行っています。職員人員不足の対応では、ベトナムからの技能実習生4名の受け入れを行い、独身寮の増設も実施しています。法人では、資格取得制度があり、介護福祉士初任者研修、実務者研修は、職員の費用負担は無く受けることが出来ています。環境整備では、浴室の脱衣所にエアコンの設置を計画しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部内部研修、外部研修、自事業所内部研修等、研修機会は広くとっていると思います。今年度より導入しましたイーケアラボは自身のペースで受けられる研修として好評です。	入職時には、法人で新入職員研修を行いその後、事業所で先輩職員によるOJTを約2週間実施しています。継続研修としては、今年度よりイーケアラボを導入しています。職員夫々が、暗証番号でログインして、業務の隙間時間を利用した自身のペースで受けられる研修になっています。年間で研修計画を作成して、法定研修や、認知症の理解など毎月1～2項目の内容を受講するようになっています。本部内研修では、人との繋がりに重点を置き見守り研修の開催があり受講しています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年4回の箱根町主催介護保険連絡会には必ず参加させて頂いており各事業所からのあらたな連絡事項なども多くあり、サービスの向上に大きく役立ち、更に連携が深まっております。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に重点を置き、それをケアプランに反映させることが出来るようにしております。その上に要望等も加えることで、お一人お一人に適した支援につながり、安心感になるように心がけております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活暦を把握した上で関わる時間を多く持ちながら、傾聴することにも重点を置き、一人ひとりに合った声掛け、対応に努めております。またご家族様との関係も良い話だけでは信頼関係が築けるものでもなく、現実や先の話も織り込んで親身の対応に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人、ケアマネージャーも含め何を一番必要としているかを見極める事が大切かと思いますが、まずはご本人を知る事を心がけてその人にとって最善の方法で対応にあたりたいと思っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する者」「介護される者」と区別するのではなく今ここで共に暮らし、あらたな生活づくりのお手伝いをさせて頂き、ごまかしのない話の中でお互いの信頼関係を築くように心がけております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの新たな情報を得る事ができるように折角の時間を大事にして話し合えるように努め、より深い関係が出来るように心がけております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や通院は出来る限り、ご家族にお願いして、帰苑時はご自宅に寄ったりして、安心して頂きたいのですが、現実はなかなか難しいのが現状です。	入居時の面談で馴染みの人や、場所などの情報について聴き取りを行い、入居後もこれまで大切にしてきた馴染みの関係が、継続出来るように支援しています。家族や友人の面会は、玄関ホールや、居室にて対面で実施しています。家族が親に地元の花火大会を見せてあげたいとの要望や、外泊の要望などの支援をしています。個別には、送ってきた商品券での買い物をする支援をしています。電話の通話や、年賀状・誕生日カードの受け取りなどの支援も適宜行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡しをしなくても入居者様同士がコミュニケーションを取ることが多く見られるようになりました。当然コミュニケーションの難しい方には職員が橋渡しをして、独りにならない生活が送れるように努めて。ります		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを何らかの事情で退去されてもグループホームのことを気に掛け下さったり、また連絡を取り合ったりと新たに情報交換も出来る等、今後も相談や支援に努めてまいります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	画一的なケアではなく、入居者様一人ひとりの生活暦を踏まえ、その方に合わせた個別ケアが出来るように努めております。その際は当然ご本人やご家族様より情報も頂き、困りごとは早い対応に努めております。	入居時の事前面談では、自宅や病院等で本人、家族、在宅時のケアマネージャーから今迄の生活歴、既往歴、趣味、嗜好などと、今後の暮らし方の希望や、意向について聴き取りを行っています。入居後、暫くは個人ノートを作成して普段の気付きや、困りごとなど記入して職員間で情報を共有し、早い対応ができる支援方法など検討しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活暦は重要なことなので、ケアマネージャーやご家族も含め把握に努めております。居室については入居者様の落ち着ける環境を整え、心地よい環境作りに気をつけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活がその人にとって充実し、満足のできる一日になるようにやりたいことやできることへの拡大をはかりながら、共に楽しむ生活が出来るようにケアプランにも繁栄しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランのチェック表やケアカンファレンス等で状況の変化に応じた個別性に配慮した目標提示がされているか話し合いをしながら再確認をしております。	初回の介護計画は、入居時のアセスメントで得られた情報を基にして作成しています。約1ヶ月間の様子を見ながら詳細に情報を収集し、ユニット会議の中でケアカンファレンスを行い、本介護計画を作成しています。介護計画は、入退院などの特変が無ければ6ヶ月毎に更新をしています。計画作成担当者がサービス内容をケアプランチェック表でモニタリングを行い、本人・家族・医療関係者など、それぞれの意見を反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に気づきの報告書をあげ、それに基づきケアカンファレンスしながら状況の変化に対応、見直しをしているとともにケアプランチェック表でも介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大きな状況の変化や問題が生じたときは、会議を開催して家族の意向や状況等を話し合い、常に個別性に配慮出来るように細やかに取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源では有償に限らず、小さな資源でも組み合わせることで大きな資源になるかとも考えています。また、安全で穏やかな生活が出来るように個人の持っている生活技術を活用できる様な生活づくりの支援もしております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との信頼関係は出来ており、いろいろ相談に応じて頂いております。また、訪問歯科や訪問ナース、訪問診療当も良く相談に乗って頂き、それを記録に残しております。ご本人やご家族様のご希望にも最大限に答えられるようにもしております。	入居契約時にかかりつけ医の確認をして、特別な要望や専門科など無ければ事業所の協力医療機関に切替えていただいています。月2回の訪問診療は間中病院で行い、緊急な診察は永井医院へ受診しています。歯科は2ヶ所から、眼科は月1回の訪問診療があります。同法人の訪問看護ステーションから週1回看護師がきて、全利用者の健康管理を実施しています。夜間緊急時は、訪問看護ステーションが窓口になっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の情報と訪問看護師の情報を記録に残し、すべての職員が適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又はそうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは営業も兼ね関係づくりに努めています。医療連携室等との情報交換も常日頃より心掛け、入退院時もスムーズに行えるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りを行っていないため、入居前からご本人やご家族様には重度化や終末期に関しては、十分な説明を行っています。また入居者様の望む事を適切に家族等にも伝えられるよう日頃から努力をしています。	入居契約時に家族や本人に重度化や、終末期に関して事業所で出来ること、出来ないことなど十分な説明を行っています。基本的に事業所では看取り介護は行わない方針ですが、地域性や、協力病院の状況などを考慮して、医療行為などが発生しない場合や、老衰など自然の形での、看取り介護の支援をしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急手当や初期対応に関しては法人内でも研修に盛り込んでおります。主治医からも入居者様それぞれあり得る急変や注意も頂いたり、昨年度より訪問診療も出来るようになり、緊急時の対応も一層スムーズになり、実践力にも繋がっているのではないかと思います		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策では消防署の指導もあり、外への避難ではなくテラスへの避難を推奨されています。年2回の防災訓練でも毎回さまざまな想定をこなすよう工夫しております。またご利用者様の薬は10日間程余裕を持たせ、食糧の備蓄もしております。箱根町災害緊急避難場所にも指定されております。	防災訓練は年2回夜間の火災や自然災害を想定して実施しています。防災設備点検も年2回実施しています。訓練内容は、消防署の指導もあり、2階は外への避難ではなくテラスへの避難を推奨され実施しています。事業所は箱根町災害緊急避難場所に指定され、地域の防災訓練にも参加しています。BCPの対応は、書類の整備を行い研修を年4回計画しています。備蓄品としては米、塩など半月分と、ヘルメット、懐中電灯、電池、ランタン、給水タンクなど用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長年一緒に生活を共にすると、知らず知らずに不適切な声かけも聴かれ、反省することもあります。しかし人格の尊重などは常に心得え対応する努力をしています。	入職時の新入研修では、法人の概念や基本方針の研修があります。継続研修でも認知症の理解や、プライバシー保護、倫理及び法令遵守などの研修を実施しています。事業所の宣言でも言葉遣いに注力して、尊厳を重視しています。排泄や入浴介助時は、同性介助を基本として、プライバシーや羞恥心に配慮した支援を行っています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご家族様などの希望が優先しがちになる事もありますが、ご本人の自己決定には自立支援も含め、話題の中でも自己決定が出来るように支援しております。また入居者様が常に何を希望されているのかとそこに気づくことも大切かと考えています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日そのときの状況や様子を見ながら、その人が望むことへの支援と一人ひとりに合ったペースを大切に過ごして頂き、好きなレク等で楽しんで頂ける様に声掛けをしながら取り組んでおります。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには常に気を配っており、季節に合った洋服を選んで頂き、汚れたときは直ぐに着替えて頂くようにして清潔にも気をつけております。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	数名の入居者様が職員と共に調理したり、味見等して頂いております。食事作りに参加できない男性入居者様やほかの入居者様も出来ることへの参加で下膳やお盆拭きなど、食事作りから片付けまでそれぞれ助け合い、皆でかわわりを持って頂いております。	食材は、1週間毎に生協に注文して購入しています。メニューは、利用者の希望も取り入れてユニット別に、2週間分のメニューを作成しています。調理は主に職員が行いますが、利用者で出来る方は、野菜の下拵えや、盛り付け、下膳、食器洗い、お盆拭きなど手伝っています。食器洗いは数名の方が行えるため順番を決めています。外食で馴染の中華料理店に行ったり、テイクアウトでお寿司を買い皆さんで楽しく食事しています。食レクでは、ホットケーキや、ぜんざいなど手作りしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全量召し上がって頂く様に声掛けを多くしながらも無理時せず見守るようにしておりますが、偏りの無いように栄養士や看護師の助言も頂き、メニューの工夫もしております。またBMIの低い入居者様には少し多めに配膳をして、体重の増加にも努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科によるドクターや歯科衛生士からの助言を頂き、口腔内の衛生、ケアなどで嚥下状態の向上、義歯のケアなど支援をしております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りリハパンやオムツを使用しない自然体で過ごせるように排泄リズム表を確認しながら、トイレにお誘いして自立排泄を促しております。またパット使用者であっても排泄リズム表を見ながら声掛けで誘導、排泄を促しております。	自立排泄を目指し、全員の排泄を排泄チェック表に記載し、一人ひとりの排泄リズムの把握に努めています。排チェック表をさんこうにして、トイレへの声掛けや、誘導支援を行うことで、パットやリハパンの使用を減らしています。バルーンカテーテルを使用している利用者や、ストーマを使用している利用者の支援をしています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては常日頃より職員の申し送りで行なわれておりますが、全面的に薬に頼らず、オリゴ糖やヨーグルト、牛乳等の飲み物で対応してみたり、主治医ともこまめに相談をしたりとその方々に合った薬の処方もして頂いております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては入浴日等管理させて頂いておりますが、入浴前には必ず声を掛けさせて頂き、ご本人の承諾を得てから入浴をして頂いております。ご入居者によってリフトやシャワーチェアの利用で安全でご希望に添った入浴が出来ております。	入浴は週2回を基本とし、午前中に入浴していただくようにしています。入浴時には、事前にバイタルチェックや、本人の様子を確認し、安全で安心な入浴していただける環境を心がけています。入浴拒否のある方は、無理強いせず時間に時間や、日程を変更して対応しています。入浴後は、水分補充をスポーツドリンクで行い、保湿クリームの塗布など支援しています。足腰の不自由な方へは、リフトを使用して浴槽に浸かれるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活ペースを尊重しつつ、安心した生活が送れるように支援しております。眠れない様な時はリビングで過ごして頂き、温かい飲み物を飲んで頂いたり、談話で良眠につなげるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬も含め、服薬介助は法人を上げて注意しております。特に新たに処方された薬などは、連絡ノートやファイル等で情報の共有漏れがないように注意しているとともに2名の服薬担当者が、主治医の指示連携で正確に 대응されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季を感じて頂いたり、時には非日常的なイベントも考えておりますが、入居者様にも役割を持ってもらい、活力に繋がるように考えております。コロナウイルスで外食等は難しいのですが、誕生日会やお楽しみ会としてお弁当をとって普段と違った雰囲気楽しんで頂いております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はなかなか外出の機会や地域の人との交流も減ってしまいましたが、出来る限り季節感を感じて頂けるように玄関前の庭の野草や花を採集したり、ウッドデッキでの外気浴等で気分転換をして頂いております。	天気の良い日には、テラスや、玄関先に椅子を用意して外気浴をしていただくようにしています。散歩を希望される方は、リハビリ病院の庭の東屋まで散歩コースとしてお連れしています。家族と一緒に一時帰宅される方、湖観光に行かれる方もいます。ドライブでは、近所のポーラ美術館や、箱根湿生花園、富士霊園などへ出かける支援をしています。桜の季節には、宮城野まで、しだれ桜や、ソメイヨシノを見に出かけるなど、立地を生かしながら季節感を感じていただけるよう支援しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金については、施設内でお金を持つことは極力遠慮して頂いております。ほしい物がある時は預り金よりお金を用意して、職員と一緒に買い物に出かける機会は設けております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは難しくなっていますが、届いた手紙は渡して呼んでいただいたり、承諾を得て読んで差し上げています。 電話でのやり取りには支援をさせていただいております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは常に掃除や消毒を行い、清潔感を感じて頂けるような空間を目指し、掲示物でも四季を感じて頂けるように季節に合わせたものに交換しております。また、ウッドデッキでは気軽に外気浴もでき、家庭菜園も楽しませております。	共用空間には、食卓とソファースペースがあり整理整頓がされ室温、湿度、換気など職員が定期的にチェックしています。毎日の掃除は、利用者も手伝い、職員による消毒も一緒に行って衛生的で清潔感を感じるスペースになっています。掲示物などは、各行事や、四季を感じる物を利用者と一緒に作り飾りつけしています。窓やテラスから眺めることの出来る箱根の山々は、壮大で四季の移り変わりを感じる事ができます。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様には思い思いの場所で過ごして頂いております。時には定席を移動してソファリビングでお茶を召し上がったり、談話をされたり、リラックスした時間を過ごして頂いております。また、ご希望により昭和の歌謡曲を聞かれ、一緒に歌うなど楽しんで頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には全ての物を自宅から持参して頂き、その方の落ち着く生活空間を目指しています。以前はリビングで皆様と過ごすことが多くありましたが、現在ではご自身の居室で自分時間を思い思いに過ごされることも多くなりました。	居室には介護用ベッド、エアコン、防災カーテン、クローゼットなど完備されています。クローゼットは、居室により括り付けの物と外置きの物に分かれています。使い慣れた家具や、テレビ、ラジオ、仏壇、家族写真など持ち込み、夫々好きな位置に置き、本人が居心地よく過ごせるように工夫しています。衣類のチェックや、衣替えなどは、居室担当の職員が手伝っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様がそれぞれ出来る事の発見を共有しております。自立支援とは研修でも行ないましたが、一つ間違えると虐待にもあたるため、勘違いしない様に話し合っております。入居者様が今何の支援が必要か見極め、できないことはお手伝いさせていただいております。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 泉の郷 仙石原

作成日

令和7年9月29日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9 10	記録・研修・年調等、今年に入り急速にIT化が進み、比較的GHの職員は高齢の方も多くついていけない状態が続いている。	職員全員が各システムの理解ができることで、結果業務の時短・軽減につながる。	法人本部でもIT化について時間枠を取り説明を行っていますが、事業所でもマンツーマンで操作の説明を行っています。	個人差も大きいと思いますが6ヶ月
2	25	レクや外出・外気浴等、心信状態の良好者や有する力のある方優先に行われる傾向が見受けられる。	レクや外出・外気浴等、平等に行う事により利用者様にもみんな一緒の一体感を持った生活が送れ笑顔での支援を続けられる。	要介護4・5の利用者様のケアプランを見直し、外気浴や外出の項目を追加する事で皆様平等に外気浴等を行う。	春に向け6ヶ月
3	55	業務優先・時間短縮で利用者様の力を活かさず職員が代行してしまう。	利用者様一人ひとりの有する力を発揮して頂きQOLの維持、向上に努めて頂き、生きがいを見出して頂く。	時間や業務にとらわれず食後の片付け・洗濯物の片付け・清掃等、利用者様とコミュニケーションをとりながら行う。	簡単でいて難しい課題になります 6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム泉の郷仙石原
ユニット名	ひめしやら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひたむきに「しあわせ」の「和」をひろげ、誰もが笑顔で暮らせる社会をつくる。また6つの規範を守ることにより基本理念を尊重し、社会貢献に努めています。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の定期掃除には参加させて頂いております。また、日常の挨拶は欠かさないように心がけております。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人口減や子供0と高齢化の進む地域になってしまいましたが、自治会活動には毎月参加をし、社協の雪かきボランティアなどに参加を予定しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度より対面で行う運営推進会議に変更しましたが、対面で行うようになり意見も幅広く、数も多くうかがえるようになりサービスの向上に生かすことができる。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	箱根町主催の事業所連絡会には欠かさず出席させて頂いております。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしておりませんが、普段の声掛け、対応が身体拘束になる事もあり、常に職員同士の連携、コミュニケーションで声を掛け合い、ご利用者様への声掛けに気をつけ、研修にも取り入れながら、身体拘束にならないようなケアに取り組んでおります。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については繰り返し研修を行なっております。内容的には職員のストレス、心理的虐待が主になっております。言葉かけや、声のトーン、対応の仕方など充分注意をする必要があるかと思ひます。起きてしまったときにはその場で注意をして早い対応をしたり、ユニット会議でも話し合いをしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では3分の1の入居者様が成年後見人の制度を利用させて頂いており、成年後見人様との話し合いや相談等いろいろ学ぶ機会もあり、今後もっと成年後見人制度の利用も増えることを予測されますので、今後実践で制度のりかいや活用が出来るのではないかと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては先を見越した説明も交えて理解、納得をして頂いておりますとともにご利用者様の不安も引き出せるように努力しております。また、今後契約書や重要事項説明書の改訂に伴い、自分自身書面の説明がしっかりとできるように理解を深めるよう努力しております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や利用者様には日頃から意見やご要望等ご面会時や電話連絡でおうかがいする様にしております。意見や要望、問題点等は電話連絡等で早い対応でご理解や解決できるように心がけております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回の職員会議において、意見の交換をして、より良いケア、業務の改善に取り組んでおります。また、2ユニットのリーダー会議での話し合い、意見交換で生じた問題点においては各ユニットに持ち帰り、あらたに職員の意見を聞き、改善へと対応に心がけております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準ではあらたな加算もあり、見直しを今年度も続けて行なっております。今年度も自員不足が続く、あらたに職場の環境、整備にも力を入れておりますが、今だ続いている職員不足は今後も大きな課題です。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部内部研修、外部研修、自事業所内部研修等、研修機会は広くとっていると思います。今年度より導入しましたイーケアラボは自身のペースで受けられる研修として好評です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年4回の箱根町主催介護保険連絡会には必ず参加させて頂いており各事業所からのあらたな連絡事項なども多くあり、サービスの向上に大きく役立ち、更に連携が深まっております。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に重点を置き、それをケアプランに反映させることが出来るようにしております。その上に要望等も加えることで、お一人お一人に適した支援につながり、安心感になるように心がけております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活暦を把握した上で関わる時間を多く持ちながら、傾聴することにも重点を置き、一人ひとりに合った声掛け、対応に努めております。またご家族様との関係も良い話だけでは信頼関係が築けるものでもなく、現実や先の話も織り込んで親身の対応に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人、ケアマネージャーも含め何を一番必要としているかを見極める事が大事かと思いますが、まずはご本人を知る事を心がけてその人にとって最善の方法で対応にあたりたいと思っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する者」「介護される者」と区別するのではなく今ここで共に暮らし、あらたな生活づくりのお手伝いをさせて頂き、ごまかしのない話の中でお互いの信頼関係を築くように心がけております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの新たな情報を得る事ができるようにせっきくの時間を大事にして話し合えるように努め、より深い関係が出来るように心がけております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や通院は出来る限り、ご家族にお願いして、帰苑時にご自宅に寄ったりして、安心して頂きたいのですが、現実はなかなか難しいのが現状です。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡しをしなくても入居者様同士がコミュニケーションを取ることが多く見られるようになりました。当然コミュニケーションの難しい方には職員が橋渡しをして、独りにならない生活が送れるように努めて。ります		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを何らかの事情で退去されてもグループホームのことを気に掛け下さったり、また連絡を取り合ったりと新たに情報交換も出来る等、今後も相談や支援に努めてまいります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	画一的なケアではなく、入居者様一人ひとりの生活暦を踏まえ、その方に合わせた個別ケアが出来るように努めております。その際は当然ご本人やご家族様より情報も頂き、困りごとは早い対応に努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活暦は重要なことなので、ケアマネージャーやご家族も含め把握に努めております。居室については入居者様の落ち着ける環境を整え、心地よい環境作りに気をつけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活がその人にとって充実し、満足のできる一日になるようにやりたいことやできることへの拡大をはかりながら、共に楽しむ生活が出来るようにケアプランにも繁栄しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランのチェック表やケアカンファレンス等で状況の変化に応じた個別性に配慮した目標提示がされているか話し合いをしながら再確認をしております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に気づきの報告書をあげ、それに基づきケアカンファレンスしながら状況の変化に対応、見直しをしているとともにケアプランチェック表でも介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大きな状況の変化や問題が生じたときは、会議を開催して家族の意向や状況等を話し合い、常に個別性に配慮出来るように細やかに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源では有償に限らず、小さな資源でも組み合わせることで大きな資源になるかとも考えています。また、安全で穏やかな生活が出来るように個人の持っている生活技術を活用できる様な生活づくりの支援もしております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との信頼関係は出来ており、いろいろ相談に応じて頂いております。また、訪問歯科や訪問ナース、訪問診療当も良く相談に乗って頂き、それを記録に残しております。ご本人やご家族様のご希望にも最大限に答えられるようにもしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の情報と訪問看護師の情報を記録に残し、すべての職員が適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは営業も兼ね関係づくりに努めています。医療連携室等との情報交換も常日頃より心掛け、入退院時もスムーズに行えるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りを行っていないため、入居前からご本人やご家族様には重度化や終末期に関しては、十分な説明を行っています。また入居者様の望む事を適切に家族等にも伝えられるよう日頃から努力をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急手当てや初期対応に関しては法人内でも研修に盛り込んでおります。趣旨胃からも入居者様それぞれあり得る急変や注意も頂いたり、昨何度より訪問診療も出来るようになり、緊急時の対応も一層スムーズになり、実践力にも繋がっているのではないかと思います		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策では消防署の指導もあり、外への避難ではなくテラスへの避難を推奨されています。年2回の防災訓練でも毎回さまざまな想定をし行なうよう工夫しております。またご利用者様の薬は10間程余裕を持たせ、食糧の備蓄もしております。箱根町災害緊急避難場所にも指定されております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長年一緒に生活を共にすると、知らず知らずに不適切な声かけも聴かれ、反省することもあります。しかし人格の尊重などは常に心得え対応する努力をしています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご家族様などの希望が優先しがちになる事もありますが、ご本人の自己決定には自立支援も含め、話題の中でも自己決定が出来るように支援しております。また入居者様が常に何を希望されているのかとそこに気づくことも大切かと考えています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日そのときの状況や様子を見ながら、その人が望むことへの支援と一人ひとりに合ったペースを大切に過ごして頂き、好きなレク等で楽しんで頂ける様に声掛けをしながら取り組んでおります。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには常に気を配っており、季節に合った洋服を選んで頂き、汚れたときは直ぐに着替えて頂くようにして清潔にも気をつけております。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	数名の入居者様が職員と共に調理したり、味見等して頂いております。食事作りに参加できない男性入居者様やほかの入居者様も出来ることへの参加で下膳やお盆拭きなど、食事作りから片付けまでそれぞれ助け合い、皆でかわりを持って頂いております。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全量召し上がって頂く様に声掛けを多くしながらも無理せず見守るようにしておりますが、偏りの無いように栄養士や看護師の助言も頂き、メニューの工夫もしております。またBMIの低い入居者様には少し多めに配膳をして、体重の増加にも努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科によるドクターや歯科衛生士からの助言を頂き、口腔内の衛生、ケアなどで嚥下状態の向上、義歯のケアなど支援をしております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りリハパンやオムツを使用しない自然体で過ごせるように排泄リズム表を確認しながら、トイレにお誘いして自立排泄を促しております。またパット使用者であっても排泄リズム表を見ながら声掛けで誘導、排泄を促しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては常日頃より職員の申し送りで行なわれておりますが、全面的に薬に頼らず、オリゴ糖やヨーグルト、牛乳等の飲み物で対応してみたり、主治医ともこまめに相談をしたりとその方々に合った薬の処方もして頂いております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては入浴日等管理させて頂いておりますが、入浴前には必ず声を掛けさせて頂き、ご本人の承諾を得てから入浴をして頂いております。ご入居者によってリフトやシャワーチェアの利用で安全でご希望に添った入浴が出来ております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活ペースを尊重しつつ、安心した生活が送れるように支援しております。眠れない様な時はリビングで過ごして頂き、温かい飲み物を飲んで頂いたり、談話で良眠につなげるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬も含め、服薬介助は法人を上げて注意をしております。特に新たに処方された薬などは、連絡ノートやファイル等で情報の共有漏れがないように注意しているとともに2名の服薬担当者が、主治医の指示連携で正確に応えられています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季を感じて頂いたり、時には非日常的なイベントも考えておりますが、入居者様にも役割を持ってもらい、活力に繋がるように考えております。コロナウイルスで外食等は難しいのですが、誕生日会やお楽しみ会としてお弁当をとって普段と違った雰囲気楽しんで頂いております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はなかなか外出の機会や地域の人との交流も減ってしまいましたが、出来る限り季節感を感じて頂けるように玄関前の庭の野草や花を採集したり、ウッドデッキでの外気浴等で気分転換をして頂いております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金については、施設内でお金を持つことは極力遠慮して頂いております。ほしい物がある時は預り金よりお金を用意して、職員と一緒に買い物に出かける機会は設けております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは難しくなってきましたが、届いた手紙は渡して呼んでいただいたり、承諾を得て読んで差し上げています。電話でのやり取りには支援をさせていただいております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは常に掃除や消毒を行い、清潔感を感じて頂けるような空間を目指し、掲示物でも四季を感じて頂けるように季節に合わせたものに交換しております。また、ウッドデッキでは気軽に外気浴もでき、家庭菜園も楽しませております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様には思い思いの場所で過ごして頂いております。時には定席を移動してソファリビングでお茶を召し上がったり、談話をされたり、リラックスした時間を過ごして頂いております。また、ご希望により昭和の歌謡曲を聞かれ、一緒に歌うなど楽しんで頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には全ての物を自宅から持参して頂き、その方の落ち着く生活空間を目指しています。以前はリビングで皆様と過ごすことが多くありましたが、現在ではご自身のの居室で自分時間を思い思いに過ごされることも多くなりました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様がそれぞれ出来る事の発見を共有しております。自立支援とは研修でも行ないましたが、一つ間違えると虐待にもあたるため、勘違いしない様に話し合っております。入居者様が今何の支援が必要か見極め、できないことはお手伝いさせていただいております。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 泉の郷 仙石原

作成日

令和7年9月29日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9 10	記録・研修・年調等、今年に入り急速にIT化が進み、比較的GHの職員は高齢の方も多くついていけない状態が続いている。	職員全員が各システムの理解ができることで、結果業務の時短・軽減につながる。	法人本部でもIT化について時間枠を取り説明を行っていますが、事業所でもマンツーマンで操作の説明を行っています。	個人差も大きいと思いますが6ヶ月
2	25	レクや外出・外気浴等、心信状態の良好者や有する力のある方優先に行われる傾向が見受けられる。	レクや外出・外気浴等、平等に行う事により利用者様にもみんな一緒の一体感を持った生活が送れ笑顔での支援を続けられる。	要介護4・5の利用者様のケアプランを見直し、外気浴や外出の項目を追加する事で皆様平等に外気浴等を行う。	春に向け6ヶ月
3	55	業務優先・時間短縮で利用者様の力を活かさず職員が代行してしまう。	利用者様一人ひとりの有する力を発揮して頂きQOLの維持、向上に努めて頂き、生きがいを見出して頂く。	時間や業務にとらわれず食後の片付け・洗濯物の片付け・清掃等、利用者様とコミュニケーションをとりながら行う。	簡単でいて難しい課題になります 6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。